

ジンリムカ 文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2023. 1. 27

No. 17

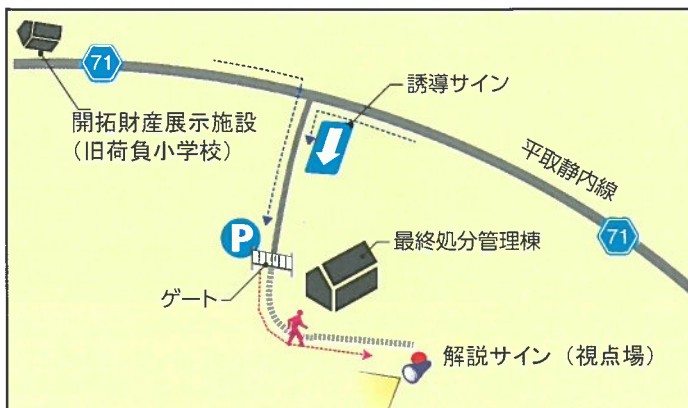


オキクルミのチャシ及びムイノカ — 文化的景観解説サインの紹介 3 —

沙流川流域には、オキクルミカムイの伝承地がいくつもあります。オキクルミは、アイヌに魚の獲り方、チセの建て方など、様々な生活の術を教えてくれた文化神です。

平取町荷負に所在する「オキクルミのチャシ及びムイノカ」は、平成 26 年 3 月に名勝ピリカノカに指定され、平成 28 年 3 月には重要文化的景観の選定域になりました。オキクルミのチャシは、オキクルミ夫妻が住んだとされるチャシであり、ムイノカ（箕・形）は、オキクルミの妻がカムイの世界に帰るときに残していったものであると言われています。

荷負にある廃棄物処理場のゲート前のスペースに駐車し、少し歩くとサインが見えてきます。春は新緑、夏は深い緑、秋は紅葉、冬は雪景色とともに山肌をくっきり見ることができ、四季折々の景観を楽しむことができます。（山本 雄）



※ゲート手前の駐車スペースに駐車願います。☎ 567 010 023

この伝承地に伝わるカムイユカラ（神謡）は、オキクルミトゥレシヒ（大空に描いたコタン）というもので、『萱野茂のアイヌ神謡集成』（カムイユカラ（神謡）編 I）に納められています。また、二風谷アイヌ文化博物館の常設展示でも視聴できます。

他にも、オキクルミが登場する口承文芸がたくさんあります。一部は二風谷アイヌ文化博物館のウェブサイト（「アイヌ語・アイヌ口承文芸」のページ）から聞くことができますので、ぜひご活用ください。

沙流川流域の野鳥たち No.5

スズメ目エナガ科

観察難易度：★★☆☆

シマエナガ

学名：*Aegithalos caudatus Japonicus*

英語名：Long-tailed Tit 漢字名：島柄長

アイヌ語名：ウパシチリ 【upas-cir】

大きさ 約14センチ 体重 約10グラム

鳴き声 さえずり：“チーチーチーチュリリジュリリ”など

と細かい声で複雑に鳴く

地鳴き：“ジュリリ”“チリリ”や“チーチーチー”

特徴 白くて丸い小さな体と、長い尾が特徴的

嘴は黒くて非常に小さい

シマエナガは、エナガという鳥の亜種です。エナガは生息する地域によって4亜種に分けられ、北海道に生息するシマエナガは他の亜種の顔にある黒い模様がありません。主食は樹液、小さな木の実、昆虫などです。そのため、春先から秋にかけては木の実や昆虫が豊富に捕れる平地から山地にかけての森の中に生息していますが、それらが捕れなくなる冬の間は、街路樹などの樹液を目当てに人里に下りて来るケースが多いと言われています。3月ごろ繁殖期に入り、つがいとなって樹木の枝や幹の二股に、クモの糸とコケ類を丸くまとめた袋状の巣を作り、中に羽毛を敷き詰めます。4月から6月に卵を7～12個産み、主に雌が12～14日間抱卵します。雛は孵化後、約14～17日で巣立ち、巣立ち後はいくつかの家族群が集まり群れで行動します。



正面



側面



巣材集め



つがい

＼人気急上昇「雪の妖精」シマエナガ／

シマエナガは、つぶらな瞳や綿のようにふわふわで丸い姿が「かわいい」と大人気で、その見た目から「雪の妖精」と言われています。写真集が発売されたり、お菓子やグッズのモチーフとなっていて、シマエナガブームとなっています。SNSで可愛い写真がシェアされはじめた5年ほど前から認知度が上がりはじめました。シマエナガが人里でみられるのは、おもに真冬の寒い時期ですが、二風谷コタンで目撃したとの情報もありますので、この冬は鳴き声をたよりにシマエナガの可愛い姿を探してみたいはいかがでしょうか。（佐々木知代）

写真提供：太田裕子氏（新冠町）

平取町立二風谷アイヌ文化博物館第 28 回特別展

「北海道における近代の学校とアイヌ民族 - さるがわ 沙流川流域を中心に -」

10月4日(火)～12月4日(日)開催

当展ではパネルや映像資料とともに、平取の学校にゆかりのある人物の関係者から寄贈された、または借用した資料を展示しました。特別展の内容は今後、平取町開拓財産展示施設の展示室C「学校」に反映します。

また、特別展開連講座を2回にわたって開催しました。第1回目は10/29(土)に北海道教育大学の百瀬響氏(文化人類学)より『国立旧土人小学校』の設置―平取尋常小学校・二風谷尋常小学校を例に―(往時使用された言葉は『』でくくって表記)、第2回目は11/12(土)にコロポックル学びの家講師で元小学校教員の平山裕人氏(アイヌ史)より「平取発～現代『アイヌ学習』の誕生」と題してご講演いただき、展示内容に対する理解を深めることができました。(廣岡絵美)



▲特別展会場の様子。



▲大正6(1917)～同17(1918)年に平取尋常小学校で教員を務めた江賀寅三(1894-1968)の聖書。江賀はのちにキリスト教会の牧師となった。



▲映像資料。パチラー保育園の4代目園長の大友正幸氏へのインタビュー映像。大友氏が園長を務めたのは昭和45(1970)～同53(1978)年。



▲昭和43(1968)年の二風谷小学校創立75周年記念式典の際に執り行われた、アイヌ歌人の達星北斗(いぼしほくと: 1901-1929)の歌碑の除幕の様子。歌碑にはアイヌ刺繍入りの幕がかけられている。歌碑の近くに立っているスーツ姿の男性は元北海道教育委員の木呂子(きろこ)敏彦(1914-2005)。写真提供: N. S氏



▲木呂子敏彦は昭和29(1954)年に完成した二風谷小学校の「とんがりぼうし」の校舎と達星北斗の歌碑の設置を提案した。地域住民から木呂子に対し感謝状やイタ(盆)と除幕式の際に使用された幕が贈られた。これらの品々は木呂子の関係者の方(N. S氏)から当館に寄贈され、本展でご紹介した。



◆沙流川歴史館講座◆ 村井雅之氏：ゆうふつ原野自然情報センター主宰

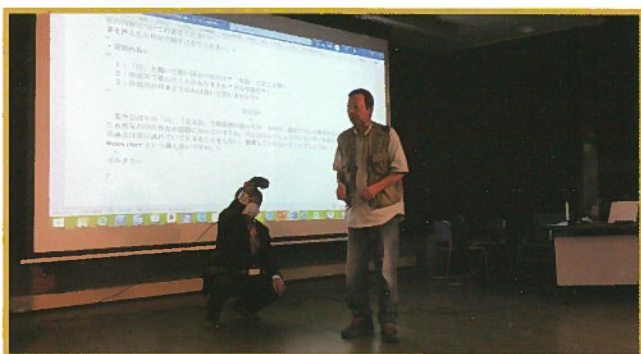
沙流川歴史館では、10月4日～12月4日まで特別展『沙流川流域の野鳥たち』を開催いたしました。

10月22日には特別展講座『沙流川から考える川と生き物の関係』と題して、村井雅之氏（むらさん）を講師に招いて開催しました。様々な目線から見た自然や動物の貴重なお話を聞かせていただきました。



◆特別展示解説◆ 公益財団法人日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリレンジャー

特別展展示解説『教えてレンジャーびらとりの鳥』
サンクチュアリレンジャーの松本潤慶氏と池淵朋華氏に
平取町内でよく見る野鳥の説明や絶滅危惧種に指定されている野鳥、生態や環境などの貴重な解説をしていただきました。
(坂本エミ)



▲講座会場にて 村井先生より「川」・「淡水」・「沙流川」3つのキーワードから考える川と生き物の関係について説明している様子



▲講座会場にて 3つのキーワードから連想する事を付箋紙に書いてボードに貼っている様子



▲展示会場にて 松本氏が野鳥とアイヌ文化との関わりについて解説している様子



▲展示室内にて 池淵氏が野鳥の生態や鳴き声について説明している様子

～野鳥の写真・写真データーご提供者の皆様～

太田裕子さん・佐藤涼子さん・馬場洋子さん・池田守さん・佐藤真澄さん・高田令子さん
老松勝則さん

ありがとうございました。

アイヌ語を覚えてみよう ⑪

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回は、ウパシ（雪）に関連するアイヌ語を紹介します。

※ ウパシ アシ（ウパシ・雪 アシ・降る） 雪が降る

※ ウパシクル（ウパシ・雪 クル・影、雲） 雪雲

※ アシリウパシ（アシリ・新しい ウパシ・雪） 初雪、新雪

※ カパラウパシ（カパラ・薄い ウパシ・雪） さっと降った雪

※ コヌパシ（コ・粉 ウパシ・雪） 粉雪

※ コンコヌパシ（コンコン・羽毛 ウパシ・雪） 綿雪

※ ポロウパシ（ポロ・大きい ウパシ・雪） どうか雪、大雪

※ ウパシルヤンペ（ウパシ・雪 ルヤンペ・嵐） 吹雪

※ ウパシホルッケ（ウパシ・雪 ホルッケ・崩れ落ちる） 雪崩

※ ウパシル（ウパシ・雪 ル・とける） 雪がとける

※ ウパシチロンヌプ（ウパシ・雪 チロンヌプ・狐） オコジョ

※ ウパシチリ（ウパシ・雪 チリ・鳥） シマエナガ



なにかと大変な ウパシ ですが、その美しさを楽しみつつ、元気に マタ（冬）をお過ごしください。

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！

（それではここまでです。またお会いしましょう！）



アイヌ政策推進交付金事業 ⑦

アイヌ政策推進交付金とは、アイヌ文化の振興や福祉施策に加え、地域振興、産業振興、観光振興等を含めた市町村のアイヌ施策を支援する交付金制度です。

文化財課では令和3年度よりアイヌ政策推進交付金事業の一環として、「二風谷アイヌ文化博物館普及啓発事業」と称し、特別展や博物館講座の経費を摘出しています。

この事業は、「アイヌ伝統文化の今日的継承」に沿った普及啓発を行うため、地域住民及び一般来館者に対してテーマを絞った事業を実施し、アイヌ文化への理解を促進することが目的となります。



令和4年度博物館特別展準備



3ページにも掲載されていますが、今年度の特別展は近代化に伴う教育環境の整備と、アイヌ民族の主体的な関わりを学ぶため、地域の指導者として活躍した平村ペンリウクや貝澤ウトレントク、川上サノウクらが学校の設立において果たした役割をご紹介します。

特別展にあわせて2つの講演会を行いました。北海道教育大学の百瀬響氏は、国立旧土人学校設置の経緯や同校で実施されていた授業内容を、当時の史料に照らし合わせて解説していただき、コロポックル学びの家講師の平山裕人氏は、現代（戦後）の平取における「アイヌの学習」の変遷を通して、1990年代の実践に焦点を当てる、という内容でご講演いただきました。

講演の直後に博物館の特別展示を解説するなど、展示も利用しながら学校、教育をテーマとしたアイヌ文化の普及啓発を図ることができました。

(阿部孝之)



百瀬 響氏（北海道教育大学教授：文化人類学）



平山 裕人氏（コロポックル学びの家 講師：アイヌ史研究）

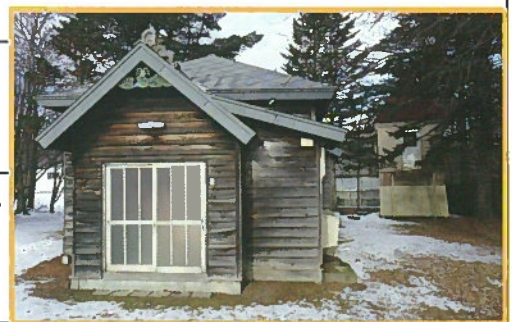
開拓財産 ～むかしのどうぐ～

にぶたに
番外編：二風谷青年会図書館(4)

明治 44(1911) 年に二風谷尋常小学校の敷地内に建設された二風谷青年会図書館は、学校の教室や保育所としても使用されました。使われ方はいくつかの刊行物に記述があります。現在では歴史建造物としての図書館の保存が地域で検討されています。(廣岡絵美)

【表】図書館の使われ方(変遷)

年号(西暦)	書籍名 表の下に 記載	図書館の使われ方に関する記述(抜粋) *二風谷青年会図書館を示す部分は 水色 で表記した。
昭和 2 (1927) 年	① ②	豊作などの理由により、児童数が急増し、校舎 ¹ が狭くなったため、特別教授場 ² を併置する。教室は 二風谷青年会図書館 を使った(p. 22)。 1 当時の校名：二風谷尋常小学校 2 特別教授場…尋常小学校(第二次世界大戦前の小学校の一種で、初頭普通教育を施した学校)よりも教育内容および施設設備が簡易な「教育所」、教育所よりも教育内容がさらに簡易な「特別教授場」の設置を認め、子どもたちがそれらに通うことによって、尋常科相当の教育機関に就学し教育を受けたと認めた(坂本 2016)。
昭和 2 (1927) 年	③	校舎近くの 青年図書館 を教室として二学級の授業がはじまりました。次の年に新教室が増築されました。この年の冬から青年夜学が開始され、若い先生を中心に青年団活動もはじまったのです(p. 56)。
昭和 4 (1929) 年頃	④	【F. K氏(1920年生まれ)へのインタビュー記事より】 3 年生の時の教室 ³ は、 二風谷青年会の図書館 を使ってやっていた(p. 1)。 3 当時の校名：二風谷尋常小学校
図書館が設置された明治44(1911)年以降の記述として	⑤	【チカラカラペ([チニンヌ]切り伏せ刺繍した衿の着物)についての解説文より】 …そして古い着物にはアットウシアミブと同じようにおくみがついていませんが、和服が入手できるようになったり、学校の先生の奥さんの指導で女子青年団の人たちが 二風谷図書館 に集まって縫いものを習うようになってからは、和服仕立ての着物に刺しゅうをほどこすようになりました(p. 61)。
昭和12、3 (1937～8) 年頃	⑥	昭和12、3年頃は名実共に 図書館 の役割をしていて、いろいろな本がたくさんあったのと、剣道の道具なども全部揃っていたものであった(p. 268)。
昭和20 (1945) 年	⑥	昭和20年 8 月の終戦後は、教員住宅 ⁴ に使用され、…(pp. 268-269) 4 当時の校名：平取村立二風谷国民学校
昭和29 (1954) 年	⑥	災害復旧と校舎老朽のため小学校 ⁵ 改築。 … 二風谷図書館 で二風谷母の会中心に季節保育所開設(p. 160)。 5 当時の校名：平取町立二風谷小学校
昭和37 (1962) 年	①	季節保育所、 青年図書館 から生活館に移る(p. 32)



▲現在の二風谷青年会図書館(2022/12/6撮影)。
右手奥は二風谷小学校旧校舎(愛称：とんがりぼうし、1954～1982まで使用された)の一部。

【表の書籍名】①『開校百周年記念誌 とんがりぼうし』(二風谷小学校開校百周年記念協賛会 1988)、②『科学研究費助成事業 研究成果報告書 資本主義社会確立期の北海道における小学校と地域社会—教育「拡充」「発展」の実態—』(坂本紀子 2016)、③『アイヌ わが人生』(貝澤正 1993)、④『二風谷アイヌ語教室 広報誌第 28 号』(二風谷アイヌ語教室 1994)、⑤『アイヌの民具』(萱野茂 1978)、⑥『二風谷』(二風谷部落誌編纂委員会 1983)

【表の校名】いずれも現平取町立二風谷小学校の昔の校名

◆◆◆◆ 開拓財産展示施設 見学のご案内 ◆◆◆◆

【開館日時】*変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日(祝日休館) 9:00～12:00
上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892
または 沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■休館日のお知らせ

4月15日までの毎週月曜日は定期休館日になります。

萱野茂 二風谷アイヌ資料館

■冬期休館（4月15日まで）

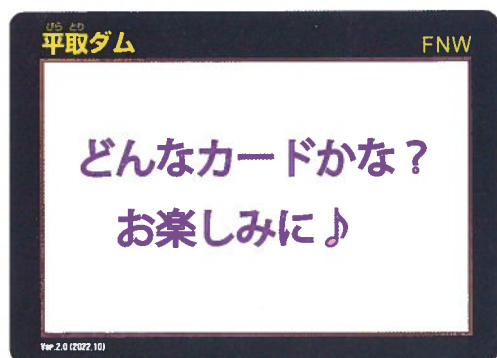
問合先：TEL 01457-2-3215

★平取ダムカードが新しくなりました★

昨年11月27日（日）より新たな「平取ダムカード」が配布されております。配布場所は、引き続き、鶴川沙流川河川事務所 平取ダム管理支所です。

【お問い合わせ】

鶴川沙流川河川事務所 平取ダム管理支所
TEL (01457) 5-5266



沙流川歴史館

■企画展

『幌尻岳登山（仮題）』

期 間：4月下旬～5月末頃（予定）

場 所：沙流川歴史館

休館日：毎週月曜日

新たな情報は歴史館Instagram・町HP等でお知らせします。



@sar.muse
沙流川歴史館

フォローよろしくお願いします



2023年1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2023年2月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	1	2	3	4

2023年3月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

2023年4月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

● 博物館・歴史館 休館日 ● 歴史館 休館日

シシムカ文化財だより No. 17

2023年1月27日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

